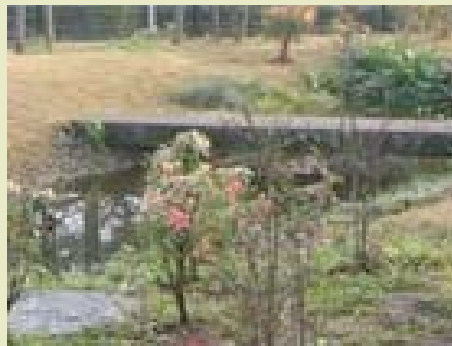


ひら やま しょう がっ こう  
平山小学校

所在地・・・東京都日野市平山4-8-6

面積・・・15,911㎡

実施主体・・・日野市 教育部庶務課

問合せ先・・・【住所】東京都日野市神明一丁目12番地の1  
【TEL】042-585-1111

平山小学校

対象地の概要・・・本小学校は、浅川と多摩丘陵に挟まれ、周辺には、水路や農地も残る自然に恵まれた環境に立地している。隣接小学校との統合を受け、平成18年～平成19年度（2006年～2007年度）に校舎の改築を行い、その際、もともと敷地内にあった自噴井を活用し、小さな流れを作り、ビオトープを整備している。

## 事業への取組みのきっかけ

日野市は、かつて東京の穀倉地帯と呼ばれ、その名残として、市内には、延長116kmに及び用水路が残り、年間を通じ水が流れ、身近な自然環境の保全と合せ、人々の憩いの場となっている。日野市では「水辺のあるまちづくり」をかかげ、その一環として、各小学校にビオトープを整備し、河川や用水路等の水辺と雑木林や農地等の緑をつなぐ役割をもったビオトープを創造し、身近な生き物の生息環境に配慮し、本校では、小学校改築の際、敷地内にある自噴井を活用した流れを創造し、ビオトープとして整備したものである。

## 整備の概要

整備実施期間・・・平成18年～平成19年度（2006年～2007年度）

## ① 「ビオトープの整備」に向けた整備手法

## Step1:整備方針の設定

「水辺に生態系を！」をスローガンに人と身近な自然とが共存できる「水辺のあるまち」づくりを目指す市の方針を基本とし、これに沿った整備を進めた。

## Step2:整備方針に基づく設計

市内のビオトープネットワークの一部を形成する身近な自然に配慮した水辺の創出を目的とした設計を行った。また、子どもたちが水辺に親しめるよう水辺へのアプローチは緩やかなものとした。

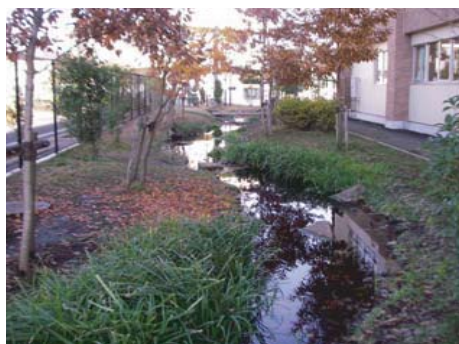
## Step3:最小限の整備

整備は、改築時の外構工事の一環として施工したが、その際人工物は必要最低限のものにとどめた。植栽についても、多摩地域に元来ある種の植栽とした。

## ② 整備時の協働者との関わり

## ③ 整備時の留意点

\* 人工的な整備は、あくまでも基本となる部分であり、整備後は自然の変化に任せた。



ビオトープの全景



緩やかに整備した水辺



近隣雑木林等でみられるコナラ

## 維持管理の概要

## ④ 「ビオトープの整備」に向けた維持管理内容

限られたスペースではありますが、あえて特別な管理はせず、自然のままの変化を受け入れ、これによって成り立つ環境を大切にしている。また、身近な自然環境を手本とし、適度な除草や樹木の剪定、繁殖した藻の適度な除去等を行っている。また、学校という場所柄、子どもたちに危険が及ぶ恐れがある場合等には、適宜対応している。

## ⑤ 維持管理時の協働者との関わり →近隣市民

コミュニティ・スクールの位置づけもあり、近隣の市民の方々がビオトープの様子なども気にかけている。

## ⑥ 維持管理時の留意点

\* 見栄えなどに配慮すると手を加えたいくなるが、基本理念を堅持し、身近な自然環境の変化をじっと見守る姿勢を貫くことが大切と考えている。



適度な除草



繁殖した藻



水辺

## 備考

## 今後の展望

学校敷地内にある環境であることに配慮しつつ、基本の方針を貫き、身近な環境の変化を見守っていきたいと考えている。

## 事業効果

● シオカラトンボ等のトンボ類、ヤマトシジミなどの蝶類、カルガモ等の水鳥のほか野鳥が羽を休める姿もうかがえ、スジエビやアメンボなどの水生生物も確認できるようになった。

● 総合学習の時間など水辺の生物・環境を学ぶ題材としても活用、放課後子どもたちが遊ぶ姿もみられる。



スジエビ



ヤマトシジミ